

第五次の訪中を終って……………	1
'84日中青年友好交流に 参加して……………	4
昭和59年度学内職場対 抗体育大会終了……………	10

第五次の訪中を終って

加藤 茂男

はじめに 最近の国際学術交流の発展及び本学の国際学術交流基金の発足をふまえて、特に中国における学術交流について検討するため、昨年9月国際学術交流委員会は、中国に関する小委員会を設置し、竹中俊夫教授(工)が主査に推せんされた。

同小委員会は審議を重ねて、(1)研究水準の高い大学との交流、(2)ハルビン工大、北京鋼鉄学院の協定と有効期限の規定、(3)基金の限度と二大学の交流の実施、(4)短期、長期の教官の派遣、(5)中国の大学事情の調査などの結論を得て、本年4月本委員会に報告し諒承された。

一方、本学では、国際学術交流の推進を図るため、東工大教職員が久しく待望していた「創立百年記念国際学術交流基金規則」が本年3月制定され、適正な運営を図るために「同事業実施委員会」が設置された。直ちに第1回の公募が行なわれ、本年7月に本学教職員の海外派遣など第五次訪中国を含む第1回目の基金事業の決定があった。

従って、第五次訪中団は、以上のような事情を背景にした目的、任務を持つと考えられるので、今までの訪中団とは多少とも事情の違うところがあった。本学としては訪中国の派遣としては第五次であるが、中国小委の検討や基金の創設などから考えると、新たな目的をもった第1回の訪中でもあると言える。

その後、第五次訪中団は本年6月第1回の打合せを行ない、訪中国の構成、日程、用務などを決め、中国小委員会と本委員会に報告し諒承された。

第五次訪中団の構成は、竹中俊夫(団長(工))、中原一郎(工)、高橋恒夫(工)、中野和夫(精研)、塚田忠夫(工)の各教授、加藤茂男(研協部長)、通訳趙彤(博士後期1年制御専攻ハルビン工大出身)であった。日程は、本年9月16日(日)から9月29日(火)までの2週間、用務は学術交流と講義であった。訪問大学は、北京鋼鉄学院、清華大学、北京工業学院、ハ

ルビン工業大学、東北工学院、大連工学院、南京工学院である。

次に各大学の学術交流、講義等について、極めて管見的であるがその概要について述べよう。

北京鋼鉄学院 王潤院長、張文奇前院長、李影波副院長、林宗彩前副院長、周榮章冶金研究所長、劉越生科学研究処長(本学研究生)、王世均熱エネルギー主任、湯学忠同副主任(本学研究生)、陳克興機械系主任、熊彬三外事弁公室副主任などと挨拶を交しながら、お互いに協定校として知人が多く、古い友人としての友情を固く確かめ合うひとときが続いた。

次いで、講義と協定の協議にそれぞれ分かれて入る。

講義については、講義関係一覧表(後掲)を参照されたいが、それぞれ個別に行なわれた。講義には20~40名の研究者が集った。講義が終ると、日本の最近の学術情報や工学教育を知りたい研究者の熱心な質問が続き、予定時間を1時間も超過した。

友好協力に関する協定の協議については、学院は、王院長、李副院長、周所長を中心とし、東工大は、竹中団長と研協部長が当り、趙さんが通訳をつとめた。

東工大としては、交流基金の設置はみたものの具体的な話は出来ないので、学院の要望をお聞きする方向で話が進められた。その要望について要約すると、

- (1) 研究協力の範囲を広げたいので、学長の協定にしたい。
- (2) レベルの高い教授の訪問について
- (3) 共同研究の実施について
- (4) 若い研究者の研修(修士以上)について
その期間が6か月では短いので、毎月の経費は低くしても1年としたい。

などの要望が述べられたが、特に学院からは、東工大の積極的な友好協力を強く希望する発言があった。



北京鋼鉄学院

清華大学 周副教務長のほか唐多元講師（本学修士課程終了研究生）などと面談した。

大学の概要は、1911年創立し、1952年新中国の時に理工系の大学に大きく発展した。学部は、建築、土木、機械、電気、環境、水利、自動車など19あり、研究機関は、原子力技術研究所、生物と医学研究所などがある。教員数3,600名、教授・助教授800名、講師2,300名であり、学生数約10,000名、修士、博士大学院1,500名である。図書館蔵書200万冊、内外の雑誌8,000種である。敷地約200万平方米、建物65万平方米である。学内の視察は、電子計算機室、電子顕微鏡室、分析センターなどであった。全体として極めて大きな規模の大学であった。周先生からは学術交流のことについての話はなかった。

北京工業学院 謝簪院長、嚴沛然副院長、肖春林自動制御主任、曹泛油圧系主任、王信義機械系主任などと面談した。

学院の概要は、1940年創立し、現在、飛行機、自動制御、車輛、電子、機械、計算機科学、工業管理など10工程系がある。教員数1,500名、教授・助教授300名、講師570名であり、学生数4,000名、大学院500名である。次いで、竹中団長と中野先生が油圧関係なので、時間の関係上その実験研究室を見学した。説明者は曹泛先生であったが、極めて真摯な態度で誠意のこもった説明であった。実験室も整備され、誠実な学風が察知された。

哈爾濱工業大学 黄文虎校長、李家宝常務副校長、姜以宏、楊士勤、張真各副校長、許耀銘教授、強文義科学研究処長、趙間外事弁公室副主任などと挨拶をする。哈工大の黄先生、張先生は昨年、李先生は今年5月にそれぞれ本学でお逢いしているので、なつかしい挨拶が交わされる。黄先生は、東工大との交流協力が益々盛んになり、大学を挙げてお迎えしましたと挨拶される。

最近中国では、22大学の大学院が認められ、北京鋼鉄、清華大、北京大、上海交通大、復旦大、哈工大などであると聞いた。哈工大では、20日(木)にその「哈爾濱工業大学大学院成立記念式典」が挙行され、東工大訪中団にも出席方要請があった。竹中団長は東工大を代表して祝詞を述べられた。

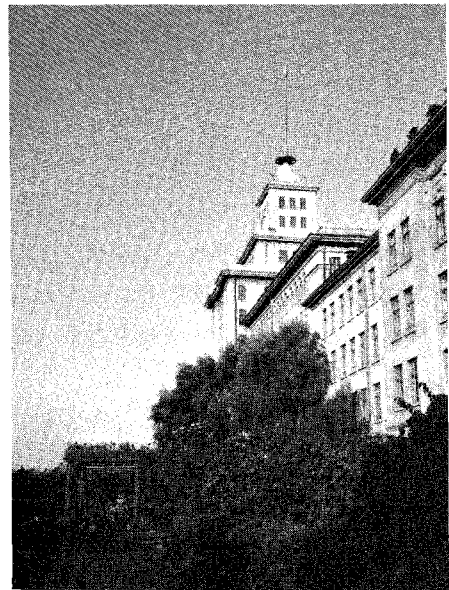
学術交流及び友好協力関係に関する協議については、哈工大は、李先生、姜先生、楊先生、許先生、周先生、趙副主任であり、東工大は、竹中団長、高橋先生、研協部長で、通訳は趙さんであった。

哈工大を代表した李先生の要望の概要としては、

- (1) 教授の交流が一番意義があること。
- (2) 研究生及び大学院生の派遣について
- (3) 講義の長期化について
教授の外に定年退官された先生の長期(6か月)の講義を希望している。経費は十分に負担出来る。
- (4) 共同研究の実施について
- (5) 哈工大は経費の負担は十分出来るが、東工大との交流は平等の原則でお願いしたい。
- (6) 東工大の考え方を尊重し、会議の議事録を作成したい。

などであった。

講義については、講義関係一覧表を参照されたいが、20~40名の受講者があり、いずれも前講同様に日本の新しい教育研究情報の熱心な質問があった。



哈爾濱工業大学

瀋陽機電学院 陳士梁副院長、王起龍科学研究処長、程寬中機械工程系主任などと面談した。同学院は、当初訪中の予定になかったが、哈工大の許耀銘先生の紹介で、同学院から学術交流の強い希望が述べら

れたので、講義を中心に訪問することにした。

講義については、講義関係一覧表を参照されたいが、やはりここでも東工大の新しい教育研究情報を知りたい希望が強かった。

学院の概要は、機械工業部に所属し、系(部)は、機械1、2、電気、電子、管理工程系などがある。教員数500名、学生数3,000名、図書館蔵書40万冊、面積33万平方メートルなどであった。

東北工学院 機電学院の講義を早目に終えた竹中、高橋両先生と研協部長の3名が、機電学院の李先生の通訳で訪問した。学院では、陸鍾武院長、老忠奎外事処長、孫麗娟通訳と面談した。

学院の概要は、現在の機電学院からさらに大きく発展するために1952年にここに移り、冶金工業部に所属し重点大学である。また校名を改称したい希望がある。学部は、機械、電気、冶金工程系など19あり、教員数1,700名、教授・助教授300名、学生数4,800名、大学院700名、外に夜間、通信教育で約2,000名がいる。材料、冶金、エネルギーセンターがあり、研究を重視している大学であるなどの説明があった。

講義関係一覧表

氏名	講義名	大学名	月日	時間
竹中俊夫	日本の油圧事情	哈工大	9月20日(木)	13:30~14:30
		瀋陽機電	9月22日(土)	13:30~14:30
		南京工	9月26日(木)	15:00~16:00
中原一郎	染の衝撃挙動と最大応力	北京鋼鉄	9月17日(日)	9:30~12:00
		瀋陽機電	同上	同上
		南京工	同上	
	数値応力解析と選点法	哈工大	同上	
高橋恒夫	時効性アルミニウム合金の初期析出と強化について	南京工	9月27日(木)	9:30~12:00
		北京鋼鉄	同上	同上 (瀋陽機電は13:30~15:00)
		哈工大		
		瀋陽機電		
		南京工		
中野和夫	電気油圧制御とその応用システム	北京鋼鉄	同上	同上
		哈工大		
		瀋陽機電		
		南京工		
塚田忠夫	瞬時流量測定法	南京工		
	機械加工表面の測定と評価	北京鋼鉄	同上	同上
	サーフェステクチャーの性質と形状精度	哈工大		
		瀋陽機電		
	形状評価と設計技術	南京工		
	座談会(設計技術とCAD関係)			

大連工学院 辛雨農副院長、高守義機械系主任、劉能宏油圧制御系主任、金鑄造系主任、楊維國外事処長などと面談した。

学院の概要は、1949年創立し、系は、機械、化学機械、水利、造船、電子工程系など11あり、研究施設として、海洋、水利水電、化学工程研究所など6研究所、金属材料研究室など4研究室がある。教員数、1,736名、正副教授272名、講師1,079名であり、学生数6,000名、大学院500名である。図書館蔵書120万冊、雑誌3,000種である。敷地128万平方メートル、建物33万平方メートルである。次いで研究施設の視察を行ない、船模実験室、海洋動力実験室、大型電算機室など比較的大きな施設であった。熱心な実験が行なわれている印象を強く感じた。

南京工学院 管致中院長、王榮年副院長、蘇機械系主任、王力学主任、王景文外事弁公室主任、吳宗漢講師(本学研究生)などと面談した。日本からの日中友好の青年3,000名の訪中により、上海のホテルが取れなくなり、上海の予定を変更して南京に滞在しなければならなくなった。従って、訪問予定の上海交通大学と復旦大学は訪問出来なくなった。

同学院の概要は、1904年創立し、教育部に所属する。学部は、土木、機械、動力、無線電、電子、自動制御工程系など27あり、また研究施設としては建築研究所、無線電電子研究所及び金属材料研究室などがある。教員数1,700名、教授47名、助教授192名、講師約1,000名であり、学生数6,000名である。図書館蔵書百万冊などである。

講義については、講義関係一覧表を参照されたいが、予定の変更によって26日(水)と27日(木)の2回行なわれることになった。受講者は、両日とも20~45名が集まり、東工大の新しい教育研究についての学術情報を強く求められた。

同学院は、東工大と学術交流の強い希望があり、竹中団長と研協部長は、同学院の要望を承ることになり、王副院長が説明し管院長が補足された。その希望内容の概要は次のとおりである。

- (1) 科学技術情報の交流について
- (2) 教授の交流について
レベルの高い教授で1~6か月、その経費は対等とする。
- (3) 若い研究者の交流について
1~2年で経費は対等とする。学振、ユネスコ研修生、基金による招へいがある。
- (4) 留学生の派遣について

大学院後期博士課程を希望する。

(5) 科学研究の協力（共同研究）について

(6) その他来年度の具体的な考え方について

ア)上記のうち、教授の交流を希望している。また若い研究者1～2名を派遣したい。

イ)本年11月中旬に管院長が東工大を訪問したい。姉妹校として交流を希望する。

などが述べられた。これによって同学院は、本学との学術交流について強い希望のあることを知った。

訪中を終って 以上、今回の第五次訪中団に参加して、中国の各大学を訪問し、学術交流、講義並びに交流協定の協議が行なわれた概要について、記録報告的にまとめた。

このたびの第五次の訪中が終って考えてみると、今まで考えていたよりも、中国の各大学は、東工大の新しい工学教育や高度な学術研究について、その詳細な情報を知りたい希望の極めて強いことを知った。そのために、教授の交流や若い研究者の派遣に強い要望があることも知った。そして、訪問した各大学で

心のこもった歓迎を受けた。訪問の大学に比べて日程が短かったが、団員一同極めて元気であったことは幸いであった。移動には多くの時間を要したが、移動の際に見聞した各地の表情も印象を鮮明に残すことが出来た。また、訪問した大学の事情調査を行なうよう心がけて、その概要を記録し、学術交流についてもその趣旨や要望を出来るだけ正確に報告したいと考えた。

このたびの訪中は、第1回の交流基金の実施であったので、中国小委の結論や交流基金の今後のあり方などが何時も心にあった。この報告が今後少しでも参考となれば幸いであり、これを機会に、中国の大学関係資料等の充実を図るよう努力したいと考えている。

最後に、第五次訪中団について、いろいろの御配慮を賜った文部省、中国大使館、中国各大学関係者、松田学長はじめ本学関係者並びに蔵前工業会に対し、心から厚く感謝申し上げる次第である。

(研究協力部長)

84' 日中青年友好交流に参加して

藤江 学*・渡辺 政人・高原 厚

河西 和雄・板倉 弘明

昨年11月に中国の胡耀邦総書記が来日された際に、「胡耀邦総書記歓迎青年の集い」が催され、その席で3,000名の日本の青年を前に講演された。その中で日中両国の世々代々にわたる友好の重要性を強調され、二十一世紀に向かう日中青年交流の一環として、1984年秋に日本の青年3,000名を中国に招待することを発表されました。今回は、この時の約束が実現し、交流に参加する機会を得たわけです。

招待を受けた3,000名の青年は、それぞれ所属する団体や活動分野、政治的立場などは異なっているが、日本の将来とアジア・世界の平和を真剣に考え、日中友好を心から願うという共通の基盤の上に立って参加したわけです。

大学生代表団は、北海道から九州まで9団体約200名で構成され、我々の団体は東京工大を幹事校として、首都圏の14大学・21名の代表からなり、本学からは団長として藤江 学(保健体育)、団員として、

総合理工学研究科エネルギー科学専攻修士2年渡辺政人、理工学研究科情報工学専攻修士2年高原 厚、理工学研究科有機材料工学専攻修士1年河西 和雄、理工学研究科応用物理学専攻修士1年板倉弘明の計5名が参加しました。

日程は9月29日成田を出発し、北京で5泊、武漢2泊、そして上海2泊の計9泊10日の旅行でしたが各地で熱烈歓迎を受け、中国の青年たちと、一層理解を深め、交流の輪を広げて大成功のうちに10月8日無事帰国しました。具体的な交流の内容については、団員として参加した上記学生4名が分担して執筆することにします。

10日間という短い旅ではありましたが各地での交流における中国の人々の歓迎は実に心温まるものでした。まず始めの訪問地北京においても予想を上回る歓迎ぶりに我々はたいへん驚かされました。

北京首都空港でのドラや太鼓の歓迎を受けた我々

は足が地に着かないままエンジン工場の見学に行きました。親切に案内してくださった人々の中に、その工場付属病院の医師をしている方がいて、その奥様は戦後中国にとり残された日本人の一人だったのです。既に日本人としてのお名前も確認されているとのことでしたが、戦中戦後の日中関係を垣間見たような気がして中国側の熱烈歓迎に浮かれてばかりいられないと感じました。

その晩は人民大会堂での歓迎宴会に招待されました。数千の人々が一堂に会した雰囲気は歴史的な荘厳さとこれからの日中関係に対する希望とに溢れていました。

翌日、首都体育館で素晴らしい催し物を見た後、中国各地の様々な少数民族の学生がいる中央民族学院を訪れました。そこでは我々と彼らとの間に言葉の壁を超えて通じ合うものがありました。特に9月30日、北京で誕生日を迎えることになった団員の一人は、偶然同日誕生日を迎える少数民族の学生一名と一緒に誕生日を祝ってもらったのです。キャンパスの中にある寄宿舎の一室で色とりどりの民族衣装を着た学生たち十数名に祝福されパーティは行なわれました。パーティはイスラムの方式にのっとり、羊肉やカザフ地方特有のお菓子を食べながら歌を歌うという簡素なものでしたが、日本学生と中国学生との心が通じ合うすばらしいものでした。

10月1日は建国三十五周年を迎えた中国最大の国慶節パレードを観覧しました。2時間にわたる50万人を越すパレードは中国の底力を余すところなく我々に示しました。そして、その晩天安門広場でまことに壮大な花火大会が行なわれました。大きな天安門広場の夜空を赤や黄の花火が埋めつくし、その下で数万人の人々が集いそして踊る。我々の感覚からはとても想像がつかないような壮大なスケールで人々は祭の宴に酔いしれる。花火の色と踊りの楽曲とが交錯する中で民族衣装を身にまとう人々と踊る我々は、まるで夢の世界にでもいるような気分で時の流れさえ忘れてしまうほどでした。先の人民大会堂での歓迎宴会といい、国慶節の大パレードといい、我々は中国のスケールの大きさに圧倒されるばかりでした。

4日目から我々は主に北京近郊の観光を行ないました。悠久の歴史を思わせる定陵、山々の陵線にそってどこまでも続く長城、輿に乗った皇帝の姿をしのばせる故宮、それらどれもが現在の中国を形成するに至ったその原動力となっていることに我々は深

い感銘を受けました。

北京での滞在を終え、華やかな見送りの中で我々は、今まで近くて遠い国といった印象が強かった中国に対して、すべての意味で隣国という感じを得るようになってきました。しかし、同時に待遇の良さとお祭り気分に浮かれて真の中国、真の交流を見失いかけているのではないかという疑問が湧いてきたのも事実です。

いずれにせよ、心温まる交流や貴重な体験の数々、そしてなによりも初めて肉眼で見た中国大陆には新鮮な感動を覚えずにはいられませんでした。我々は北京での6日間の行動を終え、各々の思いを北京に残し、次の目的地武漢へと向いました。

北京から南へ飛行機で2時間、長江（楊子江）の沿岸の街武漢が、我々の第二の訪問地です。武漢は湖北省の首府であり、古くから長江における交通の要所です。

我々は、武漢に2日間滞在し、武漢の見学と若者たちとの交流を行いました。1日目は、300年の歴史を持つ禅寺「歸元禅寺」、武漢の東に位置する広大な湖「東湖」、古楽器の展示で有名な「湖北省博物館」を見学し、その夜は、「編鐘樂舞」と呼ばれる、古楽器を用いた歌劇を鑑賞しました。

2日目は、午前中、武漢市青少年宮という、青少年のための娯楽施設で、武漢市の青少年との交歓会を行ないました。中国滞在中はどこにおいてもたいへんな歓迎を受けましたが、ここでの歓迎は、その中においても、最大級に「熱烈」なものでした。

午後は、華中工学院を訪れました。この大学は、工学、理学系のすべての分野の学科があり、さらに外国語学科を持つ総合大学です。最初、我々は校舎の屋上に案内され、大学の敷地についての説明を受けましたが、遠くの山の麓までが、大学の敷地と聞かされ驚きました。日本の大学と異なる所は、その大学で使用する教科書はその大学で出版するということでした。さらに、この大学では、大学の運営する工場を持ち、学生たちはある期間そこで実際に働き実習するとのことでした。また、ほとんどの学生が寮に入って生活しています。我々も、学生の寮を訪れることができましたが、一部屋に6～8人程度の学生が住んでいるとのこと、かなり狭い所でしたが、これも学生数が9,000人ということでは、しかたがないのかもしれませんが。

武漢の最後の夜は、長江を船で遊覧しましたが、長江のゆったりとした流れと、急速に近代化してい

く中国とが、いかにも対象的な感じを受けました。

翌日、武漢から空路1時間で、上海に到着しました。上海は、長江河口の南側に位置する中国の通商の中心地です。我々は、ここの飛行場でも“熱烈歓迎”を受けました。このあと、上海体育館で、日中交歓会に参加し、きらびやかな衣装の中国舞踊や、パンダの曲芸などに感嘆しました。中国側は、会場に“歓迎”とか“中日友好”といった人文字を作ったり、多数の少年少女による日本の歌の合唱など、大変な力の入れようでした。この後、ホテルに向かう途中、上海の目抜き通りである“南京東路”、“南京西路”を通ったのですが、道からあふれるばかりの人々と、窓越しに握手を交したのです。上海は、北京に比べて、人や建物が過密であり、高層建築もあまりなく、都市としての美しさは、北京がまさっているといえそうですが、上海には、人々の活気や自由な雰囲気があふれているように感じられました。

翌日は、朝、虹口公園で、上海海運学院の人達と、漢字を使つての筆談や英語で交流を深めることができました。午後は、江湾人民公社の見学に行き、農業品種改良場やら、老人の暮らし、幼稚園などを見たあと、ある一家庭で夕食を共にし、更に青年宮へ行き、中国最後の一晚を楽しみました。翌日は、とうとう帰国の日です。10日間もずっと一緒に行動した若い3人の通訳、随行員の人達との別れは、非常につらいものでした。団員の大半は涙を浮かべて再会を約束したものです。

この度の日本青年3,000人の中国訪問において、我々が中国の方々から行く先々で大変な歓迎をして頂いた事をお知らせし、日中両国の共通した願いである“日中友好”の絆が、より堅固になり、“子々孫々”に及んでいくものと確信して、報告を終わりたいと思います。

*(工学部一般教育等 教授)

学位（博士）授与者

昭和58年度博士課程を修了し学位（博士）を授与された2名について、氏名、学位記番号、論文題目を掲載します。

昭和59年3月26日付授与者

工学博士

モハammadマムドルラーマン：工博第1114号

Study on the Amorphous Silicon Carbide/
Crystalline Silicon Heterostructure
and its Application

浦田尚男：工博第1115号

Preparation and Reactions of Coordi-
natively Unsaturated Palladium (0)
Complexes

昭和58年度に論文提出により学位（博士）を授与された15名について、氏名、学位記番号、論文題目を掲載します。

昭和59年3月31日付授与者

工学博士

金 治弘：工第1093号

降雨一流出システムの物理機構を考慮した洪水予測に関する研究

三国政勝：工第1094号

漁業集落における住居及び近隣の空間形成に関する研究—千葉県の漁業集落調査を通して

大澤徹夫：工第1095号

建築材料並びに構造体の透湿特性測定方法に関する研究

泉 満：工第1096号

鋼構造建築溶接部の欠陥評価に関する研究

福島駿介：工第1097号

地下鉄駅まわりにおけるサインの視探索に関する研究

八木幸二：工第1098号

乾燥および湿潤地域における住空間構成の研究

角谷浩享：工第1099号

衝突確率法による圧力管型重水炉の解析に関する研究

堀内則量：工第1100号

濃度変調によるトリチウムの連続・実時間の測定法の開発に関する研究

田中一夫：工第1101号

Paraxial Theory of Mechanically Com-

pensated Zoon Lenses by Means of
Gaussian Brackets

古賀保喜：工第1102号

セシウム・ビーム型原子周波数標準器の
特性評価に関する研究

小澤文幸：工第1103号

トランスー及びシスージアアルキルビス
(第三級ホスフィン)パラジウム(II)錯
体の合成と反応

塩田正純：工第1104号

公害振動の予測と評価に関する研究

宮原和明：工第1105号

航空機騒音による社会反応の経年変化に
関する研究

清藤雅宏：工第1106号

クラッド複合金属材料の静水圧押し出しに
関する研究

杉林俊雄：工第1107号

接着継手の強度設計に関する研究

(昭和58年度学位授与者の掲載は以上で終了)

昭和59年度博士課程を修了し学位(博士)を授与
された10名について、氏名、学位記番号、論文題目
を掲載します。

昭和59年6月30日付授与者

理学博士

越谷和雄：理博第470号

脳内サブスタンスPニューロンの調節機
構および神経ペプチド代謝酵素に関する
研究

堀戸重臣：理博第471号

オルトソマイシン関連化合物の合成

工学博士

崔 時 卿：工博第1116号

高濃度窒素を含有する高Cr-高Niオース
テナイト鋼における Cr_2N のセル状析出
に関する研究

一置換型固溶元素と侵入型固溶元素が同
時に関与するセル状析出の成長挙動一

駒野治樹：工博第1117号

^{56}Fe におけるS波およびP波中性子共鳴
捕獲反応の研究

落合鍾一：工博第1118号

γ^e 析出強化型合金の構成相の相安定性

と機械的性質

一耐熱合金の合金設計を目指して一

鈴木孝弘：工博第1119号

分子の認識に基づく化学プロセスシステ
ムの構造解析に関する研究

ファンディンバック：工博第1120号

下水汚泥脱水ケーキのコンポスト化操作

昭和59年7月31日付授与者

工学博士

平林隆一：工博第1121号

多品種少量生産計画における数理計画法
の応用に関する研究

昭和59年9月30日付授与者

理学博士

小堤和彦：理博第472号

水溶液中におけるキレート錯体の構造解
析

佐々木守寿：理博第473号

L-Fuzzy Category and its Application

昭和59年度に論文提出により学位(博士)を授与
された32名について、氏名、学位記番号、論文題目
を掲載します。

昭和59年4月30日付授与者

工学博士

石井博章：工第1108号

鉄道旅客サービス・システムにおける列
車選定方式に関する研究

飯沢孝司：工第1109号

相間移動触媒を用いる高分子の反応とそ
の機能性高分子合成への応用

昭和59年5月31日付授与者

理学博士

藤本悦子：理第238号

共鳴ラマン散乱における異常偏光特性と
共鳴電子状態

工学博士

土井雅博：工第1110号

係数励振の混在するびり振動に関する
研究

荒井淳二：工第1111号

交流共振形磁気軸受の安定性

堀越 淳：工第1112号

デジタル移動通信における干渉の解析

- と軽減に関する研究
安島博幸：工第1113号
景観工学から見た送電土木施設の計画に関する研究
鈴木靖三：工第1114号
ポリアイオネンの合成とその性質に関する研究
広津敏博：工第1115号
A Study on Plasma Polymerization-Optimization of the Conditions and Evaluation of Plasma-Polymerized Films in an Inductively Coupled Glow Discharge System
片山 勁：工第1116号
交換処理に関する待ち行列理論の研究
昭和59年6月30日付授与者
工学博士
壁矢久良：工第1117号
空気渦流による加撓・伝達機構とその応用
鄭 寅聖：工第1118号
旋盤主軸系の動的性能に関する研究
大表良一：工第1119号
磁気バブルを用いた機能分散型大容量記憶とそのデータベースマシンへの応用に関する研究
昭和59年7月31日付授与者
工学博士
村田淳雄：工第1120号
イソプレンよりネリルアミンを経由するゲラニオールおよびシトロネラルの工業的製造法に関する研究
秋葉重幸：工第1121号
InGaAsP/InP Semiconductor Lasers in 1.5 μ m Range
加島宜雄：工第1122号
低損失多モード光ファイバの構造および接続に関する研究
瀬江清志：工第1123号
企業従業員の「仕事」の「生きがい」要因とその向上方策に関する研究
福田 昭：工第1124号
重荷電粒子に対する気体の阻止能に関する研究
山崎 滋：工第1125号
テレビジョンゴースト障害の客観的評価法に関する研究
木村邦夫：工第1126号
火山ガラス質堆積物による加熱発泡体の製造に関する研究
田中順三：工第1127号
酸素欠損を有するペロブスカイト型半導体の電子伝導に関する研究
五十嵐一男：工第1128号
熔融塩化物およびチオシアン化物に関する基礎的研究 状態図、モル体積、表面張力、屈折率およびX線構造解析—
昭和59年9月30日付授与者
理学博士
猪熊 俊：理第239号
ヘテロかご型三環式アミン類の合成研究
大塚英男：理第240号
磁気核融合装置におけるプラズマの挙動とプラズマ壁相互作用
工学博士
門谷建蔵：工第1129号
大型回転電機絶縁の性能向上と絶縁劣化診断方法に関する研究
西方正司：工第1130号
無整流子電動機駆動系の過渡特性とその改善に関する研究
伊藤秀男：工第1131号
自己検査性検査回路と誤り検出・訂正符号の構成に関する研究
野村卓史：工第1132号
有限要素法による非定常非圧縮粘性流れの解析法の構成に関する研究
本間紀男：工第1133号
X線による木心乾漆像の構造技法・材質の研究
影山俊文：工第1134号
亜臭素酸塩に関する研究
水野正雄：工第1135号
酸化アルミニウム—希土類金属酸化物系の高圧平衡状態図に関する研究
関沢恒男：工第1136号
気泡分散型接触装置の混合特性に関する研究

刊行物案内

昭和58年1月～12月までの1年間に発行された主な刊行物名を掲載します。

刊 行 物	版・ページ	発行部数	照 会 先
東京工業大学要覧（昭和58年）	A5 28ページ	2,200	庶務部庶務課総務掛
Tokyo Institute of Technology (1983-1984)	A5 192ページ	3,000	研究協力部国際主幹付国際交流掛
長津田キャンパス概要	A5 36ページ	3,000	総合理工学研究科等庶務課庶務掛
資源化学研究所要覧	B5 68ページ	1,000	総合理工学研究科等資源化学研究所事務掛
学部学習案内及び教授要目（昭和58年）	A5 298ページ	2,500	教務部教務課第一教務掛
大学院学習案内及び教授要目（昭和58年）	A5 311ページ	3,000	教務部教務課大学院掛
理学部・工学部学科案内	B5 63ページ	1,500	教務部教務課第一教務掛
学生便覧（昭和58年）	A5 132ページ	2,500	教務部教務課総務掛
教官総覧（1983年）	A5 492ページ	2,200	研究協力部研究協力課広報調査掛
教官研究業績一覧（1982年）	B5 117ページ	1,400	研究協力部研究協力課広報調査掛
保健管理センター年報	B5 59ページ	850	教務部厚生課保健掛

鹿沢合宿研修所の休業について

——教官寄贈図書——

本研修所は、上信越高原国立公園の2,000m級の山に囲まれたすばらしい環境に恵まれた好適地（群馬県吾妻郡嬬恋村鹿沢）に昭和12年に建設されて以来、本学学生及び教職員の各種セミナー、冬期のスキー体育実技、課外活動等に広く利用されてきた合宿研修施設であります。このたび改築されることになり、これに伴い昭和61年3月（竣工予定）まで休業となりましたので、お知らせします。

（教務部厚生課）

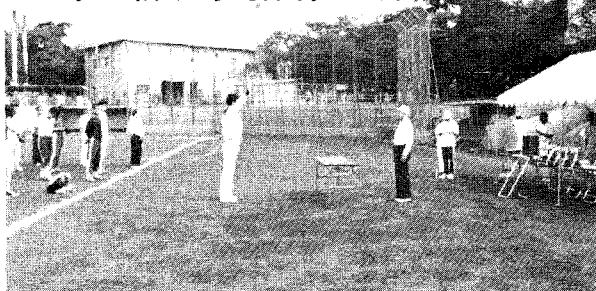
大石二郎（名誉教授）：私のTo研究24年の記録

末松安晴（教授）：長波長集積レーザ及び光集積回路に関する研究

青木成文（名誉教授）：高速増殖炉〈FBR〉開発実用化データ集

河野 長（教授）：理科年表読本地球から宇宙へ

昭和59年度
学内職場対抗体育大会終



昭和59年度の学内職場対抗体育大会は、秋空のもとに10月2日(火)、3日(水)の両日にわたり大岡山キャンパスで開催されました。

競技は、バレーボール、卓球、ソフトボール、軟式テニス及び駅伝の5種目が行われ、参加人員及び成績は次のとおりです。

なお、本大会の開催に当っては、関係職員、サークルの皆様のご協力によって予定どおり終了することができましたことを深く感謝いたします。

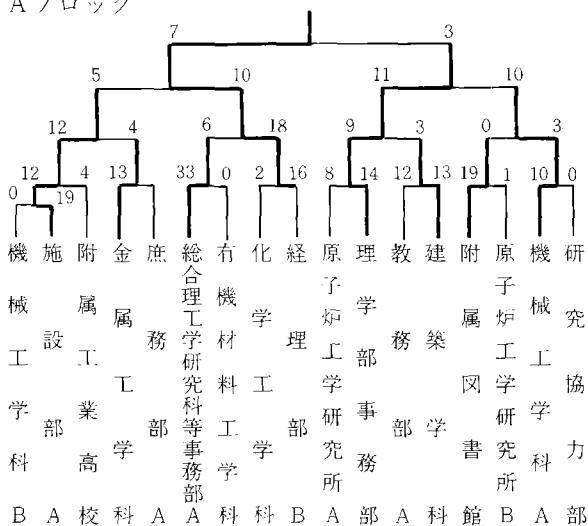
(庶務部人事課)

種 目	チーム数	参加者数	優 勝	準 優 勝	第 三 位
バレーボール	8	86	教 務 部	工学部事務部	経 理 部
卓 球	16	175	精密工学研究所	数学科・情報科学科	工学部事務部 大学院総合理工学研究科
ソフトボール (A)	17	216	経 理 部 B	理学部事務部	施 設 部 A 機械工学科 A
ソフトボール (B)	17	221	資源化学研究所	工学部事務部	施 設 部 B 経営工学科
軟式テニス	6	75	化 学 科	精密工学研究所	工学部事務部
駅 伝	13	98	機械工学科 A	総合理工学研究科等 事務部	施 設 部 工業材料研究所(四位)
合 計	77	871名			

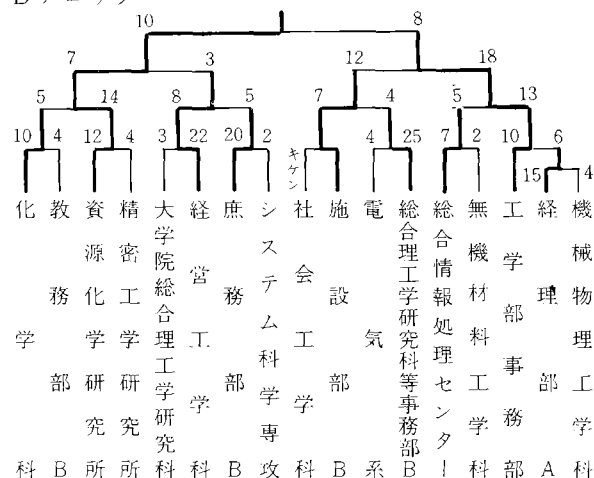
*駅伝については、第四位までを入賞とした。

◇ ソフトボール

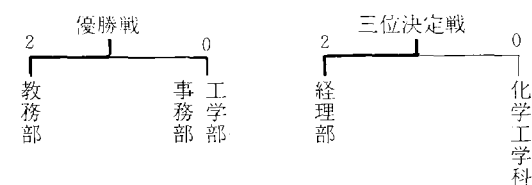
Aブロック



Bブロック



◇ バレーボール



Aブロック

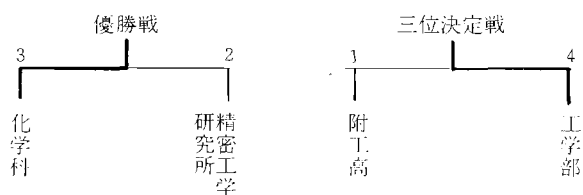
	化学工学科	原子炉研	教 務 部	社会工学科
化学工学科		②-1	0-2	棄 権
原子炉研	1-0		0-2	棄 権
教 務 部	②-0	②-0		棄 権
社会工学科	棄 権	棄 権	棄 権	

Bブロック

	工学部事務部	総合理工等 部事務	図 書 館	経 理 部
工学部事務部		②-1	②-0	②-1
総合理工等 部事務	1-2		②-0	0-2
図 書 館	0-2	0-2		0-2
経 理 部	1-2	②-0	②-0	



◇ 軟式テニス

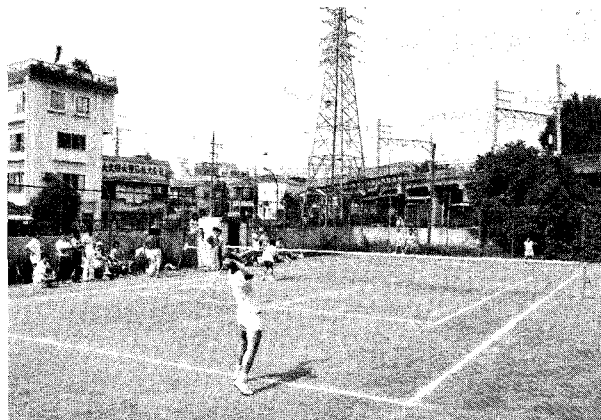


Aブロック

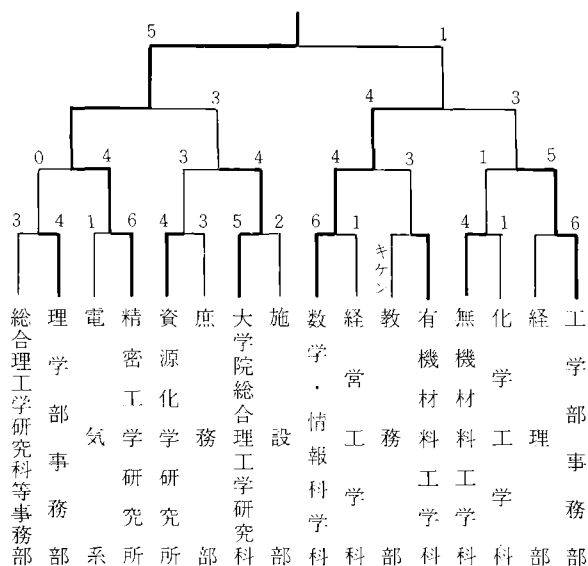
	附工高	化学科	経理部
附工高		0-5	2-3
化学科	⑤-0		③-2
経理部	③-2	1-4	

Bブロック

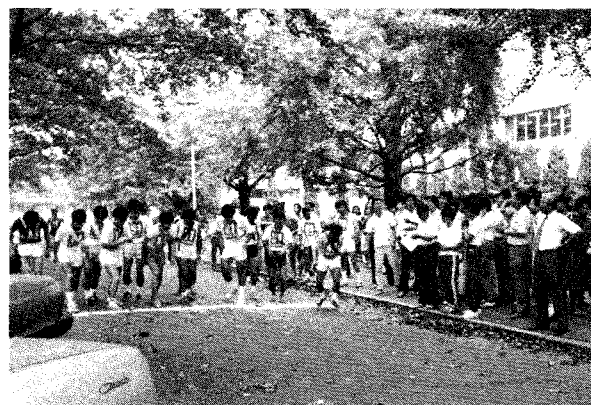
	工業材料研究所	工学部事務部	精密工学研究所
工業材料研究所		0-5	1-4
工学部事務部	⑤-0		2-3
精密工学研究所	④-1	③-2	



◇ 卓球



◇ 駅伝



順位	チーム名	タイム
1	機械工学科 A	42分02秒
2	総合理工学研究科等事務部	46分15秒
3	施設部	47分13秒
4	工業材料研究所	48分08秒
5	機械工学科 B	48分28秒
6	総合情報処理センター	48分49秒
7	経理部	49分47秒
8	教務部	50分03秒
9	機械物理工学科	50分46秒
10	附属図書館	53分32秒
11	電気系	54分54秒
12	原子炉工学研究所	57分18秒



オンライン目録情報検索 サービスについて

図書館では、新システムの稼動に伴ない、本年2月までの受入図書をもって図書館備付カード目録を凍結しました。これに替わる措置として、館内に設置の端末から利用者が直接キーワードを入力することによって、本学所蔵図書についての最新の目録・所在情報および受入処理状況についての情報が得られるオンライン目録情報検索システムの開発を進めてまいりましたが、このたび下記のとおりサービスを開始しましたのでお知らせします。

このシステムにより従来のカード目録に比べて、より多面的なかつ一元的な検索が可能となりましたので、ぜひご利用下さい。

記

- サービス開始時期 昭和59年10月17日(水)
- サービス時間 平日 9:00~19:30
土曜日 9:00~17:30
- 端末設置場所
大岡山 図書館1階目録コーナー
長津田 長津田分館1階目録コーナー
- 検索できる図書の範囲
(1)昭和59年3月以降受け入れた図書
(2)昭和59年2月以前に受け入れた図書のうち
a. 図書館備品の開架図書

b. 昭和50年4月以降受け入れた研究室備付図書

なお、(2)については必ずカード目録も併せてご利用下さい。

5. データベース更新頻度

週1回(ただし、昭和59年2月以前に旧システム等によって入力した上記4の(2)のファイルは当面更新の予定はありません。)

なお、毎週水曜日9:00~9:30の間は更新作業のため、検索サービスを停止します。

6. 検索の方法

(1)「検索の手引き」を用意していますのでご利用下さい。ご希望の方には配布しています。

(2)不明な点は、遠慮なく掛員までお申し出下さい。

7. その他

(1)雑誌の受付所在および所蔵情報についてのオンライン検索も今後早い機会にサービスを提供の予定ですが、しばらくは以下の手段により検索して下さい。

a. 「東京工業大学学術雑誌目録 1982年版」

および「雑誌受入リスト」を調べる。

b. 1984年発行分の到着情報については、職員が業務用ファイルを検索して回答します。

(2)オンライン検索サービスについてのお問い合わせは、閲覧掛(2097)または分館事務掛(2142)へお願いします。

(附属図書館)

検索実行例

```

F10: 東工大図書【簡略】目録-1984年3月以降-
(TOTAL RECORD COUNT = 6976; UPDATE: 84-10-15)

-- SUBCOMMANDS --
FIND/F PRINT/P QUERY/Q SAVE/S HELP/H RELEASE/R END

入力に要求するサイン → Q/ F K=プログラム OR プログラミング
                        Q/ # 1( 42): K=プログラム OR プログラミング
                        Q/ P 1 1
                        -----
                        #1
                        プログラム言語/米田信夫編
                        岩波書店:1983
                        (岩波講座情報科学:9)
                        図書館(長津田)
                        -----
                        401. I 9 21-499907-2

検索条件を指定するサブコマンド → Q/ F K=プログラム AND 301f
                        Q/ # 2( 2): K=プログラム AND 301f
                        Q/ P
                        -----
                        #1
                        陶器・セラミック辞典/森本洋一
                        技報堂出版:1982
                        図書館(大岡山)
                        -----
                        573. SI 11-500005-5
                        #2
                        セラミックスの技術史/森本洋一著
                        技報堂出版:1983
                        図書館(大岡山) 発注中
                        -----
                        573.02 SI

検索結果をカード形式で出力させるサブコマンド → Q/ F K=1984
                        Q/ # 3( 2400): K=1984
                        Q/ P
                        -----
                        #1
                        800件以上はプリントできません。検索条件をしばらくしてください。
                        Q/ F 3 K=SINGAPORE
                        Q/ # 1( 3): K=SINGAPORE
                        Q/ P
                        -----
                        #1
                        Graph theory Singapore 1983: proceedings of the 1st Southeast Asian Graph Theory Colloquium, held in Singapore May 10-20, 1983/edited by D. M. Koh, H. P. Yap
                        Springer-Verlag: 1984
                        (Lecture notes in mathematics: 1073/edited by A. Dold, B. Eckmann)
                        数学 共通
                        -----
                        XX-XXXXXX-X

キーワードがおさめられているフィールド名 → Q/ END

```

書名の中に「プログラム」または「プログラミング」という語が含まれている図書をさがす
1件目だけを出力させる

栗本洋一の著作をさがす
全件を出力させる

1984年に出版された図書をさがす

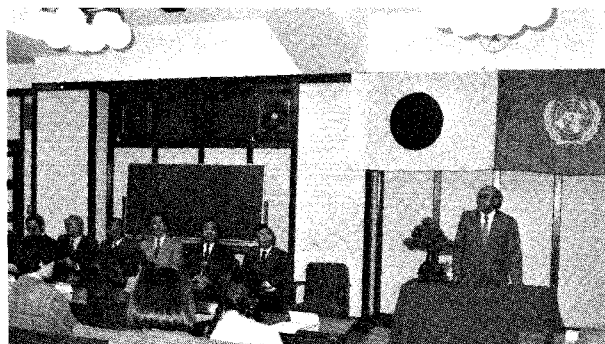
SINGAPOREで開催された会議に関する図書をさがす

検索を終了させるサブコマンド

第20回ユネスコ化学・化学工学 国際大学院研修講座が開講

昭和40年から本学で開始された同研修講座は、今年で第20回を迎え、10月11日(木)には、松田学長、文部省から雨宮留学生課長、本講座運営委員会委員等の出席を得て、開講式が行われた。
研修生の氏名・国籍及び指導教官は下記のとおりである。

氏 名	国 籍	性 別	指 導 教 官		
			部局名	教官名	内線
Srivastava Arun Kumar	India	男	理	宮崎栄三	2239
Ortega Javier Cesana	Mexico	男	理・天	野宗嘉明	2376
Kandeel Zaghloul El shahat	Egypt	男	総理	野中 勉	2430
Dong Bei	China	女	総理	加藤 武	2470
Dev Somanath	Bangladesh	男	資源	山本隆一	2222
Khan Mohamad Saleem	Pakistan	男	理	小尾欣一	2232
Sujaritvanichpong Surasak	Thailand	男	総理	徳田耕一	2426
Subramaniam Prema	India	女	資源	田附重夫	2246
Acar Metin Hayri	Turkey	男	資源	遠藤 剛	2245
Shin Chang Sub	Korea	男	工	新山浩雄	2121
Rajohandari Rita	Nepal	女	理	吉田 稔	2233
Bao Qin-li	China	男	工材	安田栄一	2317
Gomes Maria Maida Carlas	Philippines	女	資源	正田 誠	2285
Poosititak Suta	Thailand	男	工	藤平正道	2124



◆謹告



本学名誉教授池原止戈夫氏は、去る10月10日腹部動脈瘤のため逝去されました。享年八十才。

ここに深く哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

同氏は、昭和3年に米国マサチューセッツ工科大を卒業後、9年阪大講師、19年本学助教授、20年同教授、40年停年退職、同年名誉教授となられ現在に至っていました。

専門は解析的整数論，サイバネティックス。

東京工大クロニクル No.173

昭和59年11月28日

東京工業大学広報委員会 発行©

東京都目黒区大岡山2-12-1 〒152

電話 03-726-1111 内線2032
